

中学校の部 優秀賞 御荘中学校1年 白石 萌恵

四国防災八十八話 第68話 災害弱者の避難を的確に

### 「災害弱者の避難を的確に」を読んで

私は、この話を読んで、やはり災害時には地域の協力が大切だなと思いました。もし、障害者施設に誰も救助に来ていなかったらどうなっていたでしょう。入所者のほとんどの方が、土石流に襲われて亡くなられていたかもしれません。地域のみんが心を一つにして救助活動ができたことで、犠牲者が出ずにすみ、本当によかったと思います。

このように、もし何かの災害で避難しなくてはいけなくなったとき、障害者や高齢者、まだ小さい子供など、一人で避難することが困難な人は多くいます。そんなときに、近所で助け合って協力することのできる地域は、被害者を少なくすることができるはずです。特に今の時代は、高齢化が進んでおり、高齢者の数は増えています。私の家の近所にも、高齢者がたくさんいます。だから災害時、もし避難するようになったときは、私たち中学生が先頭に立って、地域の人たちを助けられるようにしたいと思っています。例えば、声を掛けてあげたり、手を引っ張ってあげたり、できることを精一杯したいです。

「心を一つにすること」これは、いつのときにも大事なことです。災害時には特に重要になります。「以前、中学校に講話に来られた方の話の中にもあったように」、普段からの地域の方々との交流が大切です。あいさつなど、コミュニケーションをとり、顔見知りになり、いざというときに助け合えるようにしたいです。

災害の発生を私たち人間の手で防ぐことは難しいですが、その被害を軽減することならできます。私自身はまだ、大きな被害にあったことはありませんが、これからもしこのような災害にあったときには、この話で学んだように自助・共助・公助の協働で被害を防げるようにしたいと思っています。